第７４回 島尻地区中学校軟式野球強化大会
（兼第１４回KBC学園杯争奪沖縄県中学校新人軟式野球大会予選）

1 主　　催　　島尻地区中学校体育連盟野球専門部

2 共　　催　　島尻地区中学校体育連盟

3 期　　日　　令和５年１１月１１日（土）・２３日（木）・２５日（土）・２６日（日）
　　＊予備日　１１月１２日、１８日、１９日、１２月２日（土）・３日（日）

4 会　　場　　新開球場・瀬長島球場・東風平球場・玉城野球場・東風平中学校・三和中学校

5 申込締切　　令和５年１０月２５日（水）　申込みデータも専門部あてに電子メールで送付し、原本、コピー２枚は大会当日球場長に提出する。

6 申 込 先　　地区専門部長

7 参加料　　¥8,000

8 参加資格　　島尻地区内の中学校1～2年生で編成したチームとし、学校長が許可したチームとする。
硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。

9 企画運営　　島尻地区中学校体育連盟野球専門部

10 競技規則　　２０２３年日本軟式野球連盟の競技規則及び本大会規定に準ずる。

11 大会規定
① １チームの登録は、選手２５名、記録員１名、監督１名、コーチ２名以内とする
② 大会でベンチに入れる人員は、監督、コーチ、選手およびチーム代表者（引率責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）の各１名とする。
③ 競技形式はトーナメント方式を行う。
④ 得点差によるコールドゲームは、３回以降１０点差、５回以降７点差とする。
⑤ 全試合、特別継続試合を適用する。（サスペンデット）
⑥ 全試合７イニングとする。試合が７回を終了して同点の場合は８回からタイブレーク（無死１・２塁継続打順制の特別延長戦を行う。勝負が決しない場合は、更に、継続打順でこれを繰り返す。）を適用する。
⑦ チームの選手（監督、コーチを含む）は同色、同形のユニホームを着用する。選手はスパイクを着用する、監督、コーチについてシューズでもよい。（シューズ、スパイクは色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。）
⑧ 一日に同一チームは３試合行わない。
⑨ 連続して試合を行う場合は、前試合の終了後、３０分後に試合を開始する。
⑩ 捕手は全日本軟式野球連盟公認マークとSGマーク入りのマスク、スロートガード、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファウルカップを着用する。打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイとも両方のイヤーフラップのついた公認マーク（J.S.B.B.）入りのヘルメットを着用すること。
⑪ 背番号は１～２５を使用し、原則としてポジション順とする。
⑫ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しない道具の球場内への持ち込みを禁止とする。
⑬ 試合中のケガは、応急処置のみとする。（当該チームで対応）
⑭ 選手の引率・監督は当該校の教職員、部活動指導員とする。教員以外のコーチについては、学校長の認めたもので、地区、県中体連に登録されたものとする。
⑮ 投手の投球制限については、別に定める。
⑯ 大会細則については、別に定める。

12 試 合 球　　内外ベースボールＭ号とする。

13 組 合 せ　　令和５年１０月２５日（水）の監督会で抽選する。

14 表　　彰　　優勝チームには優勝旗と賞状を、準優勝チームと３位チームには賞状を授与する。また個人賞として殊勲賞、敢闘賞、打撃賞１位、２位、３位には賞状を授与する。
今大会の上位２チームを第１４回ＫＢＣ学園杯争奪沖縄県中学校新人軟式野球大会へ地区代表として推薦する。

第７４回 島尻地区中学校軟式野球強化大会細則

１ 試合時間　試合時間は１時間３０分とし計算する。

２ オーダー交換　(1) オーダー提出は前の試合の３イニング終了時までに提出。攻守決定は４イニング終了時（第１試合は試合開始４５分前）に監督立ちあいの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。

３ ダッグアウト　(1) 抽選番号の若い番号を一塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。試合中は登録された監督・コーチ・選手以外のベンチ入りは禁止する

(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止とする。

(3) ダッグアウト内でのメガホンの使用は、監督、コーチのみとする。(チームで１個)

(4) 試合中必要な選手以外は、ダッグアウトよりグラウンドへ出てはいけない。

４ シートノック　(1) シートノックは行わない。

５ 応援　(1) 中学生にふさわしい応援をする。(チアホーンは禁止)

(2) 応援団は試合終了後、スタンド（応援場所）の清掃を行う。

６ 守備側と攻撃側のタイムの回数の制限

(1) 捕手または内野手が、１試合（７イニング）に投手の所へ行ける回数は３回以内とする。

(2) 延長戦（タイブレークも含む）となった場合は、１イニングに１回行くことができる。

(3) 攻撃側についても同様とする。

７ 監督が投手の所へ行く回数の制限

(1) 監督が１試合（７イニング）に投手の所へ行ける回数は３回以内とする。

(2) 延長戦（タイブレークも含む）となった場合は、１イニングに１回行くことができる。

(3) 監督が同一イニングに同一投手の所へ２度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使用または、捕手や野手に指示し直接投手の所へ行かせた場合）は自動的に投手を交代しなければならない。

(4) 自動的に交代した投手が他の守備についたときは、同一イニングに再び投手には戻れない。

８ 試合のスピード化

(1) ベースコーチ・打者・次打者の4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。

(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。

(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。

(4) 次打者席では、投手が投球動作に入ったら素振りをしてはならない。

(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はボックス内でサインを見ること。

(6) スイングスペースは、ゲームに支障がないように使用すること。

９ その他　(1) アピールは当事者、主将又は監督に限る。

(2) 一試合目の球場内でのウォーミングアップは、チーム統一のＴシャツで行ってもよい。オーダー交換前までは芝生内でのスパイクの着用は禁止とする。（２試合目以降のスパイクは可とする。）

(3) ストッキングの形と色は統一する。

(4) 投球練習を受ける選手は、防具の着用を義務づける。

(5) 手袋は原則として「白」又は「黒」を主とした高校野球対応の手袋とする。

(6) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、大会中の1日の投球数を100球、1週間の投球数を350球とする。試合中に制限投球数に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。ただしイニングをまたぐことはできない。

(7) 12秒ルール、20秒ルールを適用する。

(8) 島尻地区中体連主催(共催)大会等開催時ガイドライン及び専門部ガイドラインを遵守し大会を実施する。